

## 平成 28 年度「全国学力・学習状況調査」の結果及び分析、今後の取り組みについて

対象学年 第 6 学年 実施児童 97 名  
実施日 平成 28 年 4 月 19 日  
対象教科 国語 A 国語 B 算数 A 算数 B

### 【結果】

国語 A	児童数	平均正答数	平均正答率(%)
江戸川区立一之江小学校	97	10.5/15	69.7
東京都(公立)	89,060	11.1/15	73.8
全国(公立)	1,021,905	10.9/15	72.9

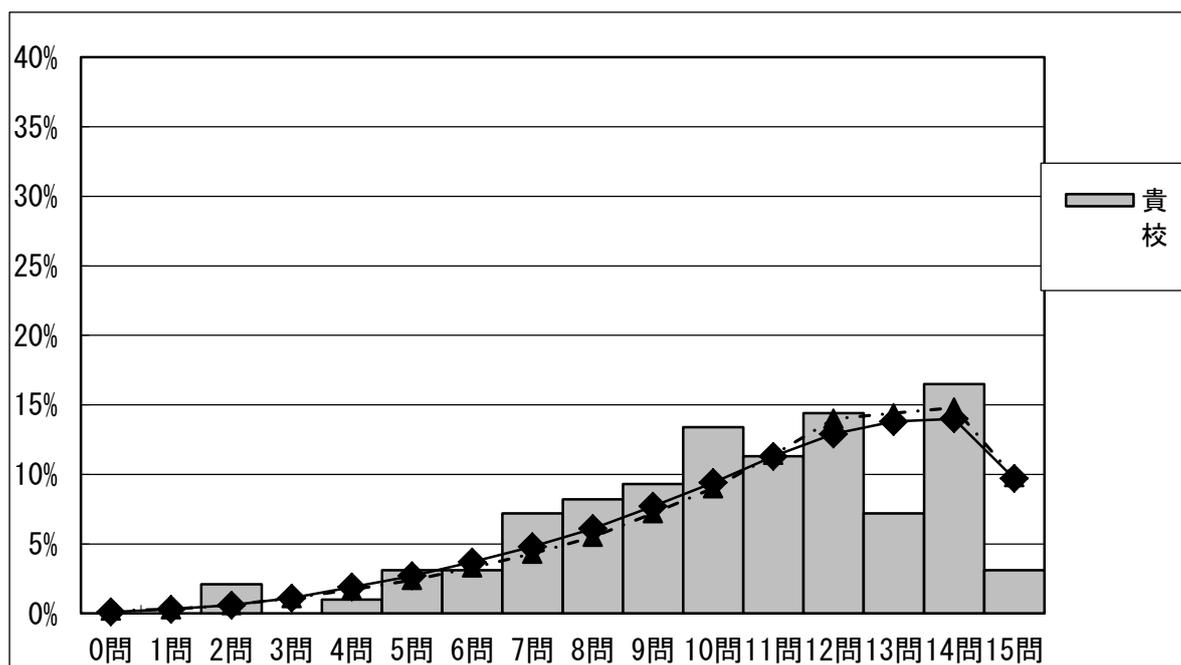
国語 B	児童数	平均正答数	平均正答率(%)
江戸川区立一之江小学校	97	5.6/10	56.1
東京都(公立)	89,053	6.0/10	59.8
全国(公立)	1,021,635	5.8/10	57.8

算数 A	児童数	平均正答数	平均正答率(%)
江戸川区立一之江小学校	97	11.8/16	73.8
東京都(公立)	89,073	12.7/16	79.4
全国(公立)	1,021,910	12.4/16	77.6

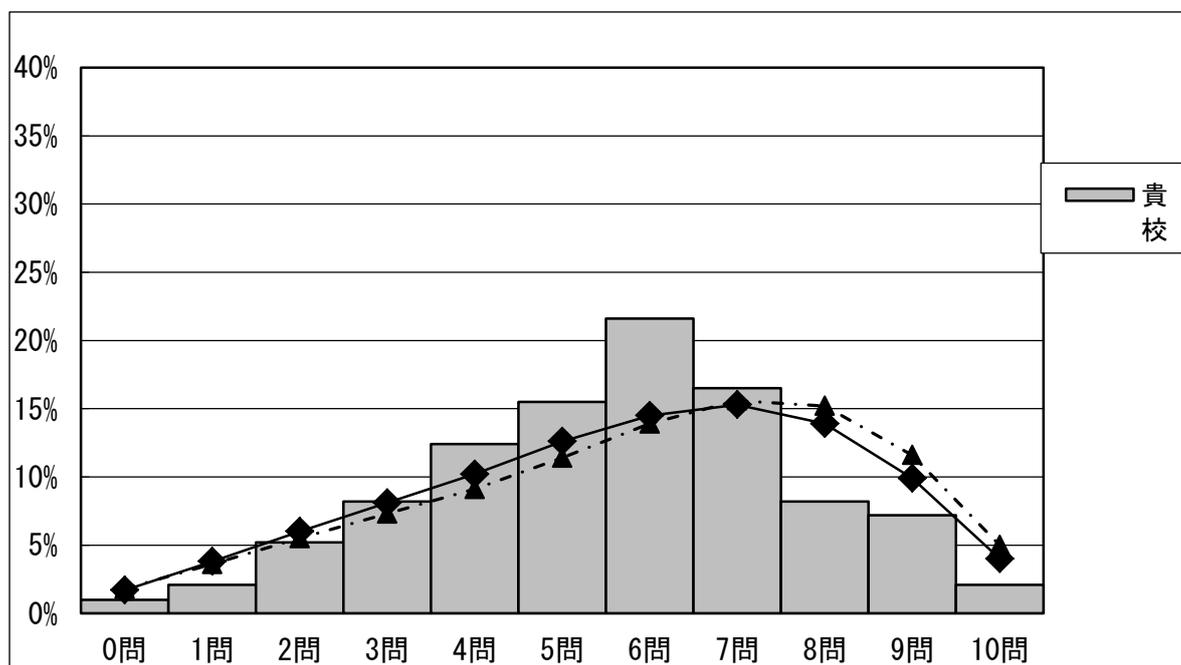
算数 B	児童数	平均正答数	平均正答率(%)
江戸川区立一之江小学校	97	5.8/13	44.3
東京都(公立)	89,084	6.5/13	49.8
全国(公立)	1,021,637	6.1/13	47.2

【正答率分布グラフ】

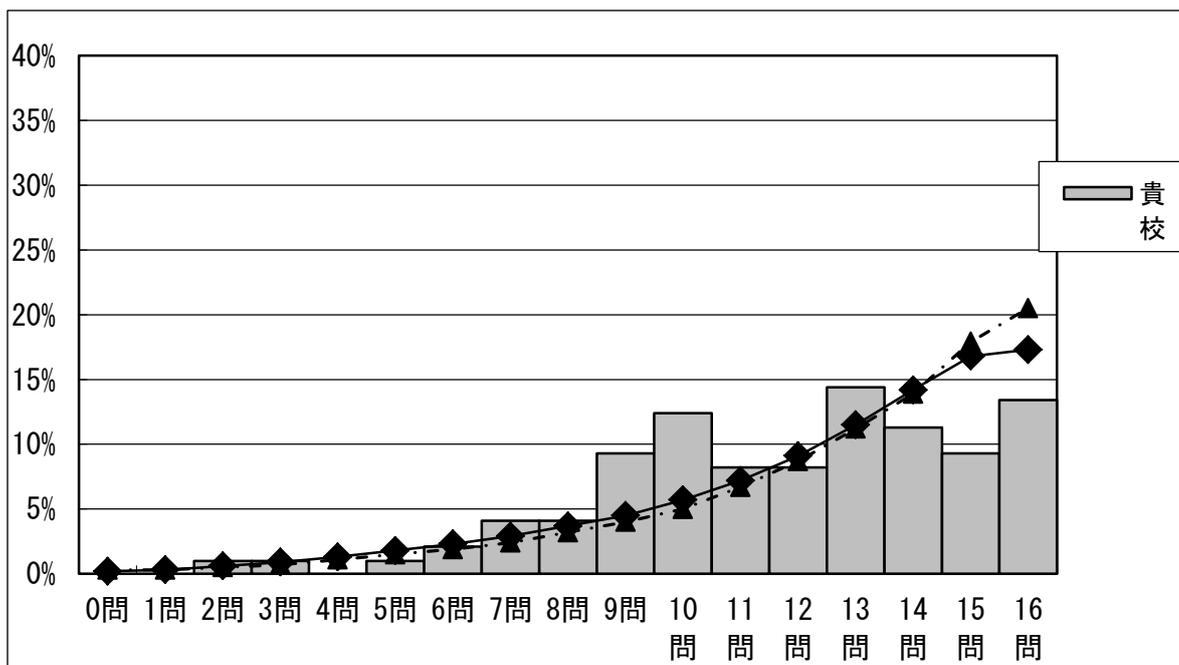
国語 A (横軸：正答数 縦軸：割合)



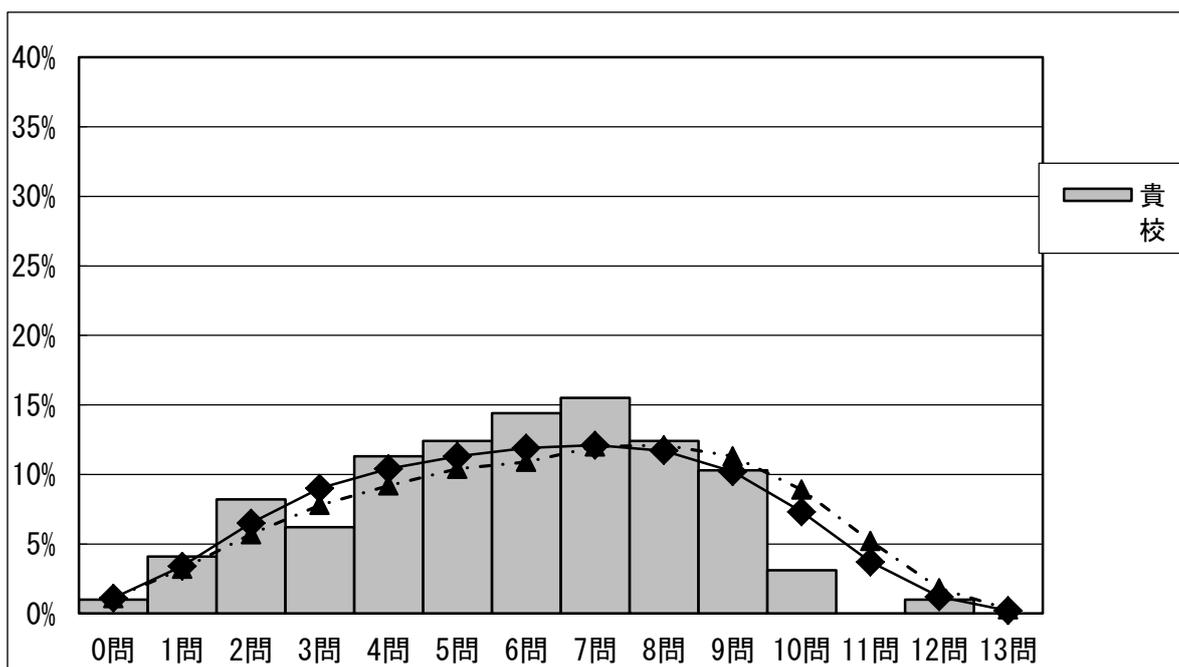
国語 B (横軸：正答数 縦軸：割合)



算数 A (横軸：正答数 縦軸：割合)



算数 B (横軸：正答数 縦軸：割合)



# 【分析】

## 国語

### 全国平均における昨年の6年生との比較

	昨年の6年生	今年の6年生	備考
主として知識	-0.2%	-3.2%	3%低下
主として活用	-5.2%	-1.7%	3.5%向上

### 都平均における昨年5年生時の都学力調査の結果との比較

	昨年の都との差	今年の都との差	備考
A教科の内容 主として知識	-5.8%	-4.1%	1.7%向上
B読み解く問題 主として活用	-10.2%	-3.7%	6.5%向上

#### ・昨年の6年生との全国平均の比較

今年度の6年生は知識問題は昨年度より差が大きいものの、活用問題では昨年の6年生に比べ全国平均との差がかなり小さくなっています。

#### ・昨年の自分たちの東京都の平均との差を見ると5年生からの1年間の学習で、国語の都平均との差が小さくなっています。特にB問題、活用問題での向上が見られます。

#### A主として知識

- ・昨年の6年生の課題であった「話す・聞く能力」については、全国平均を3パーセント、都平均を1パーセント上回っています。
- ・「書く能力」は全国平均とほぼ同じで、学習事項が定着していると考えます。
- ・「読む能力」は全国平均より2.7%低く読解力を高める指導が必要です。
- ・「言語についての知識・理解」は全国・都平均から5パーセントも低く、基礎的な内容の習得ができていないことがわかります。

## B主として活用

- ・「読む能力」は全国平均を上回りました。目的に応じて選んだり比べたりする内容で「パン職人」がテーマです。イメージしやすい話題があきらめずに問題に取り組み得点につながったと考えます。
- ・問題の形式では選択式のものが得点が高く短答や記述式は得点が低かったです。問題に対する深い読みや意欲が不足していたと推測されます。

## 算数

### 全国平均における昨年の6年生との比較

	昨年の6年生	今年の6年生	備考
主として知識	-2.7%	-3.8%	1.1%低下
主として活用	-1.8%	-2.9%	1.1%低下

### 都平均における昨年5年生時の都学力調査の結果との比較

	昨年の都との差	今年の都との差	備考
A教科の内容 主として知識	-4.0%	-5.6%	1.6%低下
B読み解く問題 主として活用	-6.7%	-5.5%	1.2%向上

- ・算数においては全国平均の昨年の6年生との差や昨年の自分たちの都平均との差が若干開きました。

## A主として知識

- ・成績中間層と上位層が同じくらいで、下位層が少ないことがわかりました。一之江タイムで学習が不十分な児童への週に一度の継続した基礎基本の指導が効果があったと考えます。
- ・「数と計算」が全国平均より5ポイント低く、「図形問題」が1ポイント高かったです。全体的に基礎基本の指導を強化する必要があります。

## B主として活用

- ・上位層が少なく中間層・下位層が多かったです。習熟度別授業の良さを生かして上位層には発展的な問題などの課題に取り組みさせる必要があります。

- ・「数量関係」「数量や図形についての技能」が全国平均を上回りました。

これも「ハードルの台を置く場所を計算」する問題で国語同様にイメージしやすい問題だったことが結果につながったと思われます。

- ・問題形式はやはり記述式よりも短答式の方が正解率が高かった。

## 【今後の学力向上に向けた取り組みについて】

(国語について)

- 文章を正しく読み取る力を身に付けるために、週2回の朝読書の継続を行います。
- 自分の思いや考えを進んで書くことのできる児童を目指し、週1回の朝作文で書く活動の習慣化を図ります。
- 国語のみならず、社会・算数・理科など各教科の学習で、予想や考察・自分の考えを記述する活動を進め、文章表現力を身に付けられるようにします。
- 国語辞典を日常的に活用して語彙の拡充に努めるとともに、四字熟語やことわざに触れる機会を増やして正しい意味の習得や日常での活用を促していきます。
- 新聞を活用し、他者の文章や構成・考え方などに触れられる機会を設けます。また、その文章を引用しながら自分の考えを表現する学習に取り組みます。
- 意見文や随筆など、書く活動を扱う単元を重点化していきます。
- 討論会やパネルディスカッションなど、話す・聞く活動を扱う単元を重点化していきます。
- 毎日の朝の会で日直によるスピーチを行います。決まっているテーマについて考えたり調べたりし、話の構成を吟味して皆に伝えることで話す力を伸ばします。
- 一之江タイムで漢字や熟語の構成などに取り組みせることで基礎基本の徹底を図ります。
- 家庭学習で毎日漢字の学習をさせたり、「自主学習ノート」で不十分な学習内容や興味のあること、日記などに取り組みせることで国語の復習を習慣化させます。

(算数について)

- 少人数学習・習熟度別学習を通じて、基礎基本の確実な習得を図ります。また、算数が苦手な児童への丁寧な個別指導やさらに発展的な内容に取り組むことのできる児童への配慮を行っていきます。

- 授業の中で既習事項を復習する時間を設け、確実な定着を図ります。また、新しい学習において、既習事項を生かして自力で問題解決ができる児童を目指し、そのための時間を授業に取り入れます。
- 東京都教育委員会が作成した「東京ベーシックドリル」を活用し、前年度までに学習した内容の確実な定着を図ります。
- 週に一度、放課後補習教室「一之江タイム」を行います。基礎基本と理解が不十分な内容の定着を図ります。
- 家庭学習で毎日計算問題をだしたり、「自主学習ノート」で不十分な学習内容に取り組みさせることで算数の復習を習慣化させます。